

第 20 回参議員通常選挙が行なわれ、事前の予想通り、民主党の躍進、自民党の不振と言う結果に終わった。

比例区に立候補した防衛庁出身者は、3 人共倒れと言う結果となり、防衛庁惨敗である。3 名の得票総数が 29 万票余りであり、3 人の得票数にそれほどの差がない、自民党比例区当選者の得票が 15 万票余りである事等を考えると 3 名擁立しての競合関係による票の掘り起こし効果はなく、共倒れとなった。現職も落選の憂き目に遭い、再三立候補して名前を売っていた筈の候補者も落選である。

面白いもので、「タラ、レバ」の話だが、3 人の内の誰かが、民主党から出馬しておれば、次点であり、公明党からであれば堂々当選する。一方、20 万票獲得しても、当選出来ない候補者も存在すると言う不可思議もある。党を選択する制度だから、有り得るのだろう。

防衛庁・自衛隊の現役隊員及び家族、隊友会会員を始めとする退職隊員並びにその家族、更に関係者をも合算すると有権者は優に 100 万を超えるだろう。そうであるにも関わらず、戦術的な判断ミスがあったにしても、一名も当選せし得ないと言うのは情けない。

今後 3 年間は国政選挙もなく、参議院選挙も当然 3 年後である事を考えると防衛に携わった経験者が参議員野党所属の T 氏一名のみとなってしまった。今後の安保防衛に関する事項は重要案件が残されている事を思うと、この時期に防衛等に造詣の深い関係議員が存在しないと言う事は残念である。

かつては、全国的な選挙になると、組織力のある組織は、〇〇一家と謂われて、その鉄の団結力を誇示したものだ。防衛庁・自衛隊でも苦勞しながらも、それなりの団結力を示してきたと小生は確信している。防衛一家と言う程ではないとしてもだ・・・

前回選挙でも、隊員の自衛隊に対する忠誠心の無さ・希薄さに驚き且つ嘆いたものだが、その反省と言うか対策が十分に為されていない。結局、無為無策だったのではなかろうか。

己が属している組織に関連している候補者に投票しないと言うのは結局、組織に対する忠誠心の欠如であり、愛情の希薄さの証明である。地縁、血縁以上の強さを持ったものとしての所謂「忠誠心」が欠如しているのだろう。そう、見なされても仕方がない。

勿論、このような傾向は防衛庁。自衛隊のみではないだろう。あらゆる組織が、かつての団結力と言うか組織力と言うか、そういうものとは無縁になりつつある。組織が溶解し始めている。昔一時、組織率の高さを誇った先生(日教組：35%)や労働組合(21%)のそれを見てもそれは顕著である。若い人ほど、加入しない傾向が強い。

が然し、である。国家防衛を任務とする武力集団には、極限状況下における任務遂行と言う特性があり、他の組織とは違う高い強固な忠誠心が求められる筈だ。

若い世代の価値観が多様化していると言われて久しいし、全ての人が同じ価値観を共有すべきだ等とは言わぬ。出来ぬ話である。然し、人として或いは組織人として根底的な価値観は共有されるべきではなかろうか。共通の目的・価値観を有する者同志が結合したものが組織であった筈だ。

組織が融解し始めている。しかも加速度的に。この様な現実を認めざるを得ないのかも知れない。その上で、新たな組織倫理を確立する事になるのだろう。

素晴らしい言葉を見つけた。「一源三流」である。山鹿素行の言葉らしいが、『家の為に汗を流し、友の為に涙を流し、国の為に血を流せ』であり、一源の「源」の意は誠だと言う。その誠から迸る3つの流れが「汗」であり、「涙」であり、そして「血」である。

(了)